



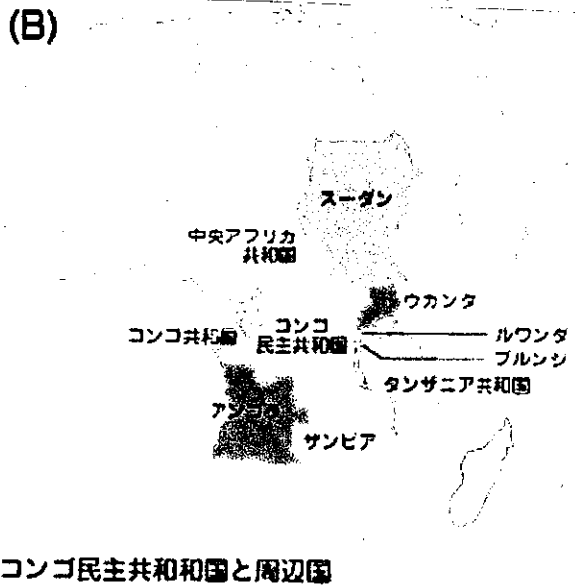
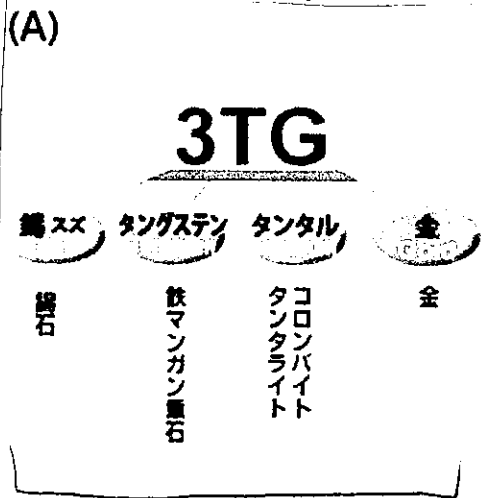
映画でつながる。未来がはじまる。  
By UNITED PEOPLE

1組 4番 名前 足立義匡

【映画】  
男を修理する女

【レビュー】  
本映画と、その主人公デニ・ムクウェゲの著書『すべては救済のために - デニ・ムクウェゲ自伝(おんな3書房)』を読み、紛争鉱物について興味を持ったので調べた。

★ コンゴの紛争鉱物 - 3TGを巡る戦争犯罪。  
第二次コンゴ戦争 (1998~2003)  
下図の(B)参照



同書157頁より(C)  
紛争鉱物に関する記述の一部を抜粋。  
紛争鉱物は、重大な人権侵害を引き起こす内戦や紛争を助ける勢力の資金源となっている。

※ コルタンとタンタルは同じ鉱石である。(コルタンは産業上の名称、タンタルは原子記号上の名称)

携帯電話、コンピュータ、照明、ジェット機の部品 etc に使われている。つまり、この3TGは、日本をはじめとする先進国の日常に必須の鉱石なのである。しかし、左上の(C)にある通り、3TGが製造に利用されている工業製品の生産者、使用者は、結果としてコンゴと周辺国の武装勢力の資金を土増大させ、人権侵害に因果している現実がある...

例えば、日本の工業製品の多くにはタンタル(コルタン)(上図の(A)参照)が使われているが、その約80%はコンゴ東部に埋まっている!

一九九八年に始まった第二次コンゴ戦争では鉱物資源、とくにコルタンが決定的な役割を果たした。天然ゴムが続いてここでもまた、産業界とともに需要が高まっていた原材料をまたまこの国が持ち合わせるようになった。そして二一世紀の初頭、電子機器分野の多国籍企業がカネに糸目をつけずにコルタンの争奪戦を繰り広げたため、暴力の蔓延を許す闇市場が誕生した。コルタンが採れるこの現代の黄金郷をまたの民兵組織と武装勢力が牛耳り、コルタンから得られた利益で武器を次々に購入した。そしてこのコルタンの闇取引が横行しはじめた時期が、女性への性暴力が始まった時期とちょうど重なっている.....



映画でつながる。未来がはじまる。  
By UNITED PEOPLE

5組 16番 名前 小島隆之助

【映画】

## 「女を不修理する男」

【レビュー】

タイトルを見て、僕は「女を不修理する」なんて正から目線な言草があるかと不快に感じた。しかし、映画を見終った後にはタイトルの見方がまったく変わっていた。

この映画はコンゴ民主共和国で性的被害にあった女性たちを医師のデニムクワゲが暗殺未遂にあいながら献身的に治療していくという内容だ。

映像の内容はとてショックで強姦を受けた女性や父母を殺され片目が見えない少年などが登場してくる。

特に印象に残ったのは屋内に銃剣を刺された女性だ。糞と尿は同じところから出てき、7回もの手術をしいた。

このような凄惨な被害を受けた女性たちだが希望は失っていない。反対運動をし、権利を勝ちとって。僕はこの映画を見て、強姦被害について知った。

また、デニムクワゲの生き様も素晴らしく、絶望の中にある女性たちに治療をし、生きる希望と与える姿はまさに「不修理する」という言葉があっているように思えた。

デニムクワゲが彼女たちのように逆境を負わず僕も立ち向かっていきたい。



映画でつながる。未来がはじまる。  
By UNITED PEOPLE

8組 6番 名前 鬼澤駿太郎

【映画】

## 女を修理する男

【レビュー】

「思ったよりもはるかに悲惨。」

本作はコンゴ国内で起きた紛争の中で、性暴力被害女性を治療したデニ・ムクウェゲ医師の話でした。しかし単に女性と医師が向き合うという話だけではなく、医師がそもそも性暴力が起きないように国連でスピーチして訴えていたり、性暴力被害女性の中でやっと司法制度が整って加害者を告訴できるようになったと喜んでいる人もいてそれらのことについても取り上げられていました。

まず映画の中で最初に紛争の影響で何度か人の死体が映っていたので、日本とコンゴは治安が根本的に違っていると感じました。この治安の悪さが性暴力被害を増やしている原因だと思います。又、紛争を起こしている反政府勢力も政府の軍人も同じように女性への性暴力を行っていて、更には政府の保健大臣が、医師が国連で性暴力反対のスピーチをすることを止めろと脅迫したことも知りました。作中何度か政府への恨みを語る人もいます。僕は政府側の人の意見が知りたくなかったのですが、そのような人はほとんど登場しなく、見解が分からなかったのがそこが残念でした。

被害女性の全員が後遺症を身体的にも精神的にも抱えていました。手の施しようがない怪我を負った患者に出会ったとき本当に憤りを感じている医師の姿をみて、医師の女性への思い、治療に全力で当たりたい気持ちを知ることができました。しかし自分の家と畑を持ち、生活をしていく中で希望をもてたという女性もいます。裁判で性暴力加害者を捕まえられるようになってきました。少しずつですが、コンゴは平和な国へと変わって行っていると思います。